

第 7 期
報 告 書

2015年4月 1日から
2016年3月31日まで

一般財団法人 日本ドッジボール協会

2015年度事業報告書

当会が一般財団法人として発足し7年が経過、2011-2021長期計画に基づき、統括競技団体として必要な事業は2014年度までに展開し、2015年度はそれぞれの事業をさらに推進させる段階となった。

主な事業として、全国大会3大会の初会場開催（夏・静岡、シニア全日本・神奈川、全日本女子総合・岐阜）、公認指導者講習会集合学習④の実施と日体協指導者制度への加入、日本代表トレーニングキャンプ・シニアカテゴリートライアルキャンプが挙げられる。

財政面では、まず全国大会では開催地コンベンションからの支援強化、製作物の内容・販売方法の見直し、また指導者関係での講習テキストの整備等、他各事業に於いて収支のバランスの取れた実施を目指し、さらにルールブック改定年度であることも重なり大きく状況が改善した。

一方で小学生競技チーム登録は引き続き減少しており、一年を通じて登録チームの無い県が発生、また新規シニア競技者も伸び悩みと、課題も残された。

事業の方向としては正しい選択と思われるため、今後は全国大会開催地におけるドッジボールの普及、地元コンベンション協会等組織の活用推進をさらに効率的に進めていく。

1. 小学生全国大会実行委員会

全国大会（夏・春 小学生対象）

夏・春共に、ミズノスポーツ振興財団の助成を受け、夏は初の静岡県（エコパアリーナ）開催、春は東京体育館での開催となった。

まず夏は、2014年度北海道に続く3大都市圏以外の開催として初の静岡県開催となった。

当日の運営面においては、全国大会運営未経験のスタッフが大部分であったものの募集以上の人数が集まり、東海ブロック連絡会の協力も得て滞りなく実施することができた。また、台湾より3チームが来日し、地元静岡県所属チームとの交流試合を楽しんだ。

春については、JSCのスポーツ振興基金助成を受け、東京体育館で開催した。ここ数年別カテゴリーの全国大会との同時開催が続いていたが、今回は小学生（D1）単独の全国大会に戻り、経験豊富な関東ブロック連絡会スタッフの積極的な協力も得て、計画どおりのスケジュールで実施された。

こちら香港協会より2チームの来日があり、ブロックの選出チームとの親善試合を実施した。

両全国大会とも円滑な運営であったが、参加チームに関する懸念として、1年を通じて青森県からは代表チームの選出が無く、災害等の直接の理由に拠らずに全都道府県からの選出に至らなかった点が挙げられる。普及計画の重視が改めて必要となった。

大会収支については大幅に改善され、今後は地元コンベンションとの連携の流れを強めてさらなる安定開催を目指す。

日時	2015年8月9日（日）9:00～16:40	2016年2月21日9:00～16:40
会場	エコパアリーナ（小笠山総合運動公園）メインアリーナ、サブアリーナ （〒437-0031 静岡県袋井市愛野2300-1）	東京体育館 メインアリーナ・サブアリーナ 〒151-0051 東京都港区千駄ヶ谷1-17-1
後援	文部科学省、静岡県教育委員会、公益財団法人日本体育協会、公益財団法人日本レクリエーション協会	スポーツ庁、東京都、公益財団法人日本体育協会、公益財団法人日本レクリエーション協会、朝日新聞社
協賛	公益社団法人糖業協会、タマノイ酢株式会社	タマノイ酢株式会社
特別協力	ミズノ株式会社	
協力	株式会社モルテン、株式会社ミカサ、近畿日本ツーリスト株式会社、株式会社共同写真企画、株式会社プロフットサニー、株式会社フィス	
参加チーム人数	全国46都道府県より48チーム 選手 小学生男子女子 818名、 指導者 141名 (他、招待 台湾3チーム)	全国46都道府県予選代表48チーム 選手 小学生男子・女子 821名、 指導者141名 (他、招待 香港2チーム)

2. 競技委員会

主催大会では競技運営を円滑に行うと共に、ルールの徹底、審判員の資質向上のため諸施策を実行した。常任委員会では審判員育成課題等、競技全般に関し情報交換、研究、検討を行い、全国大会時における審判クリニックでは各地域から派遣される審判員を通じ全国への周知を図った。

尚、昨年までスポーツ振興くじ助成を受けて実施していた中央研修会は、これまでのグループ討議で集めた意見、ならびに参加者アンケートに伴う要望(ニーズ)等を基に、各ブロックが独自に自ブロックの特性と目標設定、及びその目標実現のためのカリキュラムを検討し開催する方式に変更することとした。

① A級公認審判員検定

年間を通じて実施（レポート・実技）	受験者2名	合格者2名
-------------------	-------	-------

② B級公認審判員認定講習会

開催ブロック	開催日	開催場所	受験者	合格者
北海道	2016/1/31	恵庭市総合体育館(北海道)	2	1
東北	2015/8/29	仙台市立七郷小学校体育館（宮城県）	4	2
関東	2015/11/8	さいたま市立和土小学校（埼玉県）	13	2
北信越	2015/10/4	須坂市立日野小学校（長野県）	10	1
東海	2015/10/18	名古屋市立港南小学校（愛知県）	13	1
関西	2015/11/8	大阪市立柴島中学校（大阪府）	10	2
中国	2015/9/6	廿日市市立平良小学校（広島県）	6	2
四国	2015/12/13	八万コミュニティーセンター(徳島県)	12	5
九州	2015/6/7	アクション福岡（福岡県）	3	0
計			73名	16名

合格者数・合格率共に低下しており、半数近くを占める再チャレンジの受験者に関して、前回受験後の是正（フィードバック）及び対策他が効果的に実施されていない傾向が伺えた。

次年度からは、中央研修会で実践した指導内容等を基に受験準備段階における事前研修の方法や指導内容面に関する見直し（精査）を図り、また、指導ポイント要領の伝達を実施すると共に受験者本人の努力（向上心）を踏まえた上での推薦（見極め）を行なう様、確認を行った。

3. 普及委員会

2014年度からの継続事業として「SMILEドッジスクール」(totoスポーツ振興くじ助成事業)を4県4会場で実施した。

本事業の目的は、日本代表講師による小学生に対する基本技術の指導もさることながら、新規参加者と地域のチームの接点を目的としており、運営スタッフには特に新しい選手の加入を求めるチーム指導者が加わることを意識し取り組んだ。

SMILEドッジスクール（スポーツ振興くじ助成事業）

日程	会場	親子	小学生
2015年6月28日（日）	磐田市総合体育館（静岡県）	21組	60名
2015年10月18日（日）	松江市立城北小学校（島根県）	23組	42名
2015年10月25日（日）	鳥取市立遷喬小学校（鳥取県）	10組	29名
2015年11月22日（日）	亀山市東野公園体育館（三重県）	26組	51名

今年度は食育分野とのより融合を図り、日本代表選手には技術の手本だけでなく、食事・栄養の重要性に関する説明の要素を試みた。参加した子供達の注目という点では効果的であったが、もともと代表選手にとっては専門外分野のため負担も大きく、2016年度はあくまで栄養士の分野として別の組み合わせで進めることとした。

4. 指導委員会

競技別の講習会の最終段階として集合学習④のカリキュラムを作成し、茨城県にて初開催した。集合学習①～④+考査（実習10時間+レポート提出による審査）までの仕組みが整ったことにより、日本体育協会への加盟時点より目標とした公認指導者制度への加入が正式に可能となった。

公認指導者講習会 集合学習④	2015年10月24日(土) 笠間市民体育館 2015年10月25日(日) 笠間市立笠間小学校体育館	受講者32名 (対象は公認準指導者資格区分Ⅰ取得者のみ)
-------------------	---	---------------------------------

現在の協会独自の指導者資格の中では最上位にあたるため、受講者は意欲的に取り組み、受講した内容を生かしながら10時間の実習に取り組んだことがレポートより窺えた。

カリキュラムとしては、集合学習②の発展形として、指導者自身が競技力向上のためのトレーニングや選手理解に基づいたチームの組み立て、選手のメンタル強化、体力の分析とその向上のための練習方法を学ぶことで、それぞれの選手の将来を見据え、選手の発達段階に応じた指導ができるよう各単元の内容を整備した。また、チーム全体の経営計画の作成や評価をすることにより、チーム経営に生かせる内容を目指して構築した。

来年度以降は日本体育協会と足並みをそろえることになる。中期的には他競技の指導者の参加も見込まれるため、映像の活用や単元ごとの時間配分の見直し等のカリキュラムの改善、及び制度の整備と周知を引き続き図っていく。

5. 事業委員会

①第2回全日本女子総合選手権

2014年度より独立開催となり、小学生～社会人までの女子選手の総合大会として実施した。

計画当初の助成としてはJSCのスポーツ振興基金助成、および（公財）スポーツ安全協会のスポーツ普及奨励助成のみの予定であったが、翌年の全国レクリエーション大会のプレイベントの意味合いとして、岐阜県レクリエーション協会より共催の申し出を受け、その紹介による岐阜県スポーツイベント助成も得られる事となった。

また、開催地の岐阜県ドッジボール協会を中心とした東海ブロックの協力体制は万全で、地元メディアからも大きく取り上げられた。

事業内容としては、前回に引き続き、競技会実施だけでは普及育成の余地は限られるという前提に立ち、スケジュールに次の内容を加えた。

- 元ビーチバレーボール選手で岐阜県在住の浅尾美和さんを講師として招いてのトークセッション
- 女性アスリート健康支援委員会より産婦人科医師の宮本由記先生を招いて、女性アスリート特有の悩みや環境に関する講演会
- ドッジボール日本代表選手による技術講習会
いずれも有意義であったものの、一方でスケジュールの過密さという問題も残り、競技会との調整をどのように行っていくかについて、改めて課題となった。

大会名	期日	会場名	参加チーム数
第2回全日本女子総合選手権	2015年12月12日～13日	岐阜メモリアルセンター メインアリーナ サブアリーナ	女子小学生(D1G) 都道府県代表32チーム 女子中学生以上(シニア) ブロック代表12チーム

②2015J.D.B.A.全日本選手権

2014年度に引き続き、中学生以上の競技者個人登録制度とブロック予選を伴った形で開催した。

初会場の小田原アリーナに東北ブロック～九州ブロックまでの8ブロック代表40チームが集まり、小学生のプレースタイルから進化した、格闘技に近いスタイルの熱戦が展開された。

現在はこのカテゴリーの協賛企業は無く、大きな変更は困難なものの、小学生の希望者を募り試合補助の役割を果たしながら間近での観戦、決勝戦は専用のセンターコートを設置等、限られた予算内での工夫を試みた。

運営スタッフも30人程度と小学生全国大会に比べて半分以下であったものの、地元神奈川県協会を始めとした関東ブロックの多大な協力により、滞りなく実施された。

大会名	期日	会場名	参加チーム数
2015J.D.B.A.全日本選手権	2015/2/28	小田原アリーナ	北海道を除く8ブロック代表40チーム (予選参加94チーム)

③協会広報紙の製作

totoスポーツ振興くじ助成を受けて、協会活動を加盟協会協会内外に向けた広報紙2回の製作し、協会員・地方公共団体等へ発送した。計画当初は主に会員・関係者向けの情報提供紙として進めていたが、製作段階において、ドッジボール協会の活動を知らない方・団体への紹介を含めた内容で進める事とし、2016年度以降はその要素をより強くすることとした。

6. 日本代表活動事業

トレーニングキャンプ・トライアルキャンプ

主に2014年度代表及び代表候補者向けとして指導方法等を含めた育成を意図したトレーニングキャンプ、及びシニア選手全体の技術力の底上げとそれによるシニアカテゴリー全体の充実を通じて代表選手への動機付けを図るトライアルキャンプを実施した。

事業名	期日	合宿地域	参加者数
2015年度日本代表トレーニングキャンプ	2015年 8月12日(水)13日(木)	茨城県常総市	45名
2015年度シニアカテゴリー トライアルキャンプ	(東日本) 2015年 10月10日(土)11日(日)	山梨県山中湖村	26名
	(西日本)2015年 11月21日(土)22日(日)	兵庫県南あわじ市	32名

国際大会の無い年度という点を利用し、技術強化や選手選考という観点からやや距離を置き、

リーダーとしての意識や取り組み方の確認という、今後、引き続き、または新たに日本代表を目指す際にも必要となる資質の強化も目指した。いずれの場合も地元において競技ドッジボールを浸透させていく役割を担うケースが増えると思込まれるため、今後はシニア層全体の普及効果へ繋がるよう推移に注目していく。

7. 総務委員会

定例の会議の他に、加盟団体を対象として、シニア大会事業の本格的な実施や、競技者登録・会員登録手続き等の意義の再確認と質問・疑問への対応、また活動が盛んな地域との情報共有の機会を設けるために、5月に事業説明会を開催した。

会議の開催状況

①総会

会議名	開催日	主な審議事項
2015J.D.B.A.事業説明会	2015/5/17	2015年度事業計画説明 各種手続き・新規制度説明、加盟団体活動情報交換

②評議員会

会議名	開催日	主な審議事項
定時評議員会	2015/6/24	2014年度事業報告・収支決算、及び 2015年度事業計画・収支予算の承認

③理事会

会議名	開催日	主な審議事項
第1回	2015/4/25～26	(2015年度ミズノスポーツ振興財団助成金贈呈式) 指導者制度計画確認 2016年度夏小全国大会会場決定 2014年度事業・収支報告、2015年度事業・予算計画承認 2015J.D.B.A.事業説明会内容検討
第2回	2015/7/19	第25回夏小全国大会・2015J.D.B.A.全日本選手権・第2回全日本女子総合選手権進捗状況確認
第3回	2015/10/18	上半期事業・収支報告承認 第2回全日本女子総合選手権進捗確認 2016年度第3回全日本女子選手権開催地・第26回春小全国大会開催地承認
第4回	2015/11/23	2016年度toto・振興基金助成申請事業選定 2017年度春小全国大会開催地承認
第5回	2016/1/17	2016全体計画、第2回全日本女子総合選手権総括、 2015年度見通し、春小全国大会準備状況確認
第6回	2016/3/23	2016第3回アジアカップ日本代表監督(O-13)承認、代表監督 選考方法の承認(U-12)

8. その他

当協会主催事業以外に、他団体主催事業への日本代表選手派遣活動を進めた。

- ❖ 2015スポーツ祭り (<http://www.joc.or.jp/event/sportsfestival/>)
 (主催 文部科学省、(独)日本スポーツ振興センター、(公財)日本体育協会他)
 2014年度以降3年目となり、今回もオリンピック・アスリートの一員として3名を全体行事に派遣した。午後からの小学生100名を対象にしたドッジボール教室も安定して開かれ、模範プレーとハンディキャップをつけた対戦等の企画は大いに盛り上がりを見せた。

2015年10月12日 (月・祝/体育の日)	味の素フィールド西が丘 (ドッジボール・東京都北区)
---------------------------	-------------------------------

- ❖ スミセイアフタースクールプロジェクト (<http://sumiseiafterschool.jp/about/>)
 住友生命相互保険相互会社・NPO法人放課後アフタースクールが主催している、本プロジェクトは2年目を迎え、2015年度は単発企画ではなく、常設の「健康」プログラムとして規模を拡大して実施した。2016年度も引き続き実施が決定している。

2015年7月20日(月)	東伯児童館(鳥取県東伯郡琴浦町)
2015年7月29日(水)	学童保育すまいるはうす(和歌山県海南市)
2015年8月18日(火)	学童保育すまいる高山北小のぐるみ学級 (岐阜県高山市)
2015年12月25日(金)	育成学童クラブ(沖縄県うるま市)
2016年1月5日(火)	NPO法人すまいるネット南魚沼北辰クラブ (新潟県南魚沼市)
2016年1月30日(土)	(東京都江東区)
2016年2月28日(日)	おおかみ学童クラブ(大阪府内)

他、2016年度に継続・または拡大することが決まっている派遣事業が続いており、第3回アジアカップの派遣代表選考期間とのバランス調整が必要となった。

第 7 期

計 算 書 類

(貸借対照表、損益計算書、財産目録及び個別注記表)

2015年4月 1日から
2016年3月31日まで

一般財団法人 日本ドッジボール協会

貸借対照表

2016年 3月31日現在

一般財団法人 日本ドッジボール協会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	6,423,469	1,712,378	4,711,091
商品	1,405,654	1,012,907	392,747
前渡金	138,480	52,150	86,330
未収入金	5,895,872	5,097,260	798,612
流動資産合計	13,863,475	7,874,695	5,988,780
2. 固定資産			
(1) その他固定資産			
工具器具備品	1	1	0
ソフトウェア	323,400	678,300	△ 354,900
保証金	414,000	414,000	0
その他固定資産合計	737,401	1,092,301	△ 354,900
固定資産合計	737,401	1,092,301	△ 354,900
資産合計	14,600,876	8,966,996	5,633,880
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	462,888	701,462	△ 238,574
前受金	742,000	856,000	△ 114,000
預り金	53,822	51,590	2,232
未払法人税等	70,000	70,000	0
未払消費税	875,700	481,800	393,900
流動負債合計	2,204,410	2,160,852	43,558
負債合計	2,204,410	2,160,852	43,558
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	12,396,466	6,806,144	5,590,322
正味財産合計	12,396,466	6,806,144	5,590,322
負債及び正味財産合計	14,600,876	8,966,996	5,633,880

損益計算書（正味財産増減計算書）

2015年 4月 1日から2016年 3月31日まで

一般財団法人 日本ドッジボール協会

（単位:円）

科 目	当年度	前年度	増 減
一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
事業収益			
事業収益	12,108,935	15,517,763	△ 3,408,828
登録料収益			
チーム登録料収益	4,824,000	5,100,000	△ 276,000
受取会費			
協会員受取会費	21,991,000	20,496,000	1,495,000
役員等受取会費	710,000	810,000	△ 100,000
加盟協会料収益			
加盟協会料収益	2,400,000	2,350,000	50,000
スポンサー料収益			
スポンサー料収益	9,912,000	8,907,940	1,004,060
販売収益			
販売収益	12,207,254	5,103,307	7,103,947
検定料収益			
公認球検定料収益	1,067,904	1,736,640	△ 668,736
手数料収益			
手数料収益	1,110,634	1,063,216	47,418
受取補助金等			
受取助成金	7,051,000	7,568,000	△ 517,000
雑収益			
雑収益	699,987	719,084	△ 19,097
経常収益計	74,082,714	69,371,950	4,710,764
(2) 経常費用			
事業費			
謝金	907,458	1,831,615	△ 924,157
旅費交通費	7,091,124	11,546,768	△ 4,455,644
宿泊費	3,857,134	4,487,432	△ 630,298
事業支援費	15,860,800	13,387,800	2,473,000
事業大会視察	293,348	106,560	186,788
貸借リース料	2,573,001	2,216,980	356,021
制作費	4,565,693	4,759,589	△ 193,896
用具費	1,380,494	2,444,760	△ 1,064,266
通信運搬費	2,017,429	2,145,915	△ 128,486
印刷製本費	3,636,029	2,049,358	1,586,671
事業消耗品費	3,746,147	3,238,434	507,713
事業雑費	1,360,212	968,521	391,691
管理費			
給与手当	8,361,678	8,727,869	△ 366,191
通勤費	726,024	422,213	303,811
法定福利費	1,384,358	1,376,087	8,271
福利厚生費	71,610	70,260	1,350
賃借料	3,135,252	3,030,632	104,620
リース料	388,449	424,620	△ 36,171
旅費交通費	855,006	1,646,755	△ 791,749
通信費	382,999	424,454	△ 41,455
運賃	776,894	823,277	△ 46,383
発送業務委託費	78,408	91,080	△ 12,672
消耗品費	343,768	810,998	△ 467,230
顧問料	1,000,000	1,000,000	0
業務委託費	747,144	680,940	66,204
会議費	42,626	158,482	△ 115,856
接待交際費	261,010	492,314	△ 231,304
水道光熱費	391,628	346,167	45,461
諸会費	581,250	570,810	10,440
租税公課	878,950	484,600	394,350
支払助成金	100,000	100,000	0
減価償却費	354,900	354,900	0
雑費	271,569	406,239	△ 134,670
経常費用計	68,422,392	71,626,429	△ 3,204,037
当期経常増減額	5,660,322	△ 2,254,479	7,914,801
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	5,660,322	△ 2,254,479	7,914,801
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	5,590,322	△ 2,324,479	7,914,801
一般正味財産期首残高	6,806,144	9,130,623	△ 2,324,479
一般正味財産期末残高	12,396,466	6,806,144	5,590,322
II 正味財産期末残高	12,396,466	6,806,144	5,590,322

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
商品……最終仕入原価法による原価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
有形固定資産……建物に定額法、建物以外は定率法
無形固定資産……定額法
- (3) リース取引の処理方法
所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっている。
- (4) 消費税等の会計処理
税込方式で計上している。

2. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高(直接法により減価償却を行っている場合)

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
工具器具備品	10,011,600	10,011,599	1
ソフトウェア	1,774,500	1,451,100	323,400
合 計	11,786,100	11,462,699	323,401

3. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

補助金等の名称	交付者	前期末 残高	当期増加額	当期減少額	当期末 残高	BS上の 記載区分
補助金・助成金						
加盟団体助成金	日レク	0	100,000	100,000	0	—
平成27年度 スポーツ奨励普及事業助成金	スポ安	0	700,000	700,000	0	—
平成27年度 岐阜県スポーツイベント振興補助金	岐阜県	0	401,000	401,000	0	—
平成27年度スポーツ振興基金助成 金	スポ振興	0	3,544,000	3,544,000	0	—
2015年度ジュニア育成に対する助成	ミズノ財団	0	500,000	500,000	0	—
平成27年度スポーツ振興くじ助成金	toto	0	1,806,000	1,806,000	0	—
合 計		0	7,051,000	7,051,000	0	

財産目録

2016年 3月31日現在

一般財団法人 日本ドッジボール協会

(単位:円)

科 目		金 額	
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金手許有高		19,660	
普通預金	みずほ銀行神谷町支店	485,909	
普通預金	みずほ銀行神谷町支店(賛助会員)	2	
普通預金	みずほ銀行神谷町支店(振興くじ)	119,092	
普通預金	みずほ銀行神谷町支店(JKA)	1	
普通預金	みずほ銀行神谷町支店(ｽｰ 振興)	90	
郵便振替	東京貯金事務センター(審判)	5,136,262	
郵便振替	東京貯金事務センター(積立金)	10,729	
郵便振替	東京貯金事務センター(ｽｰﾀｰ)	48,650	
郵便振替	東京貯金事務センター(祝賀会)	58,724	
郵便振替	東京貯金事務センター	544,350	
商品	ルールブック、賞状、テキスト他	1,405,654	
前渡金	東京カラー印刷他	138,480	
未収入金	スポーツ振興助成金他	5,895,872	
流動資産合計			13,863,475
2. 固定資産			
(1) その他固定資産			
工具器具備品	大会用コート	1	
ソフトウェア	システム開発費	323,400	
保証金	事務局	414,000	
その他固定資産合計		737,401	
固定資産合計			737,401
資産合計			14,600,876
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	事務局経費他	462,888	
前受金	2016年度会費	742,000	
預り金	源泉税他	53,822	
未払法人税等		70,000	
未払消費税		875,700	
流動負債合計			2,204,410
負債合計			2,204,410
正味財産			12,396,466

貸借対照表総括表

2016年 3月31日現在

一般財団法人 日本ドッジボール協会

(単位:円)

科 目	一般会計	特別会計(大会)	特別会計(toto)	合 計
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金預金	6,423,469	0	0	6,423,469
商品	1,405,654	0	0	1,405,654
前渡金	138,480	0	0	138,480
未収入金	1,466,872	3,945,000	484,000	5,895,872
流動資産合計	9,434,475	3,945,000	484,000	13,863,475
2. 固定資産				
(1) その他固定資産				
工具器具備品	0	1	0	1
ソフトウェア	323,400	0	0	323,400
保証金	414,000	0	0	414,000
その他固定資産合計	737,400	1	0	737,401
固定資産合計	737,400	1	0	737,401
資産合計	10,171,875	3,945,001	484,000	14,600,876
II 負債の部				
1. 流動負債				
未払金	462,888	0	0	462,888
前受金	742,000	0	0	742,000
預り金	53,822	0	0	53,822
未払法人税等	70,000	0	0	70,000
未払消費税	875,700	0	0	875,700
元入金	△ 23,362,828	18,308,538	5,054,290	0
流動負債合計	△ 21,158,418	18,308,538	5,054,290	2,204,410
負債合計	△ 21,158,418	18,308,538	5,054,290	2,204,410
III 正味財産の部				
1. 一般正味財産	31,330,293	△ 14,363,537	△ 4,570,290	12,396,466
正味財産合計	31,330,293	△ 14,363,537	△ 4,570,290	12,396,466
負債及び正味財産合計	10,171,875	3,945,001	484,000	14,600,876

損益計算書（正味財産増減計算書）総括表

2015年 4月 1日から2016年 3月31日まで

一般財団法人 日本ドッジボール協会

(単位:円)

科 目	一般会計	特別会計(大会)	特別会計(toto)	合 計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
事業収益				
事業収益	4,106,935	8,002,000	0	12,108,935
登録料収益				
チーム登録料収益	4,824,000	0	0	4,824,000
受取会費				
協会員受取会費	21,991,000	0	0	21,991,000
役員等受取会費	710,000	0	0	710,000
加盟協会料収益				
加盟協会料収益	2,400,000	0	0	2,400,000
スポンサー料収益				
スポンサー料収益	8,524,000	1,388,000	0	9,912,000
販売収益				
販売収益	10,423,854	1,783,400	0	12,207,254
検定料収益				
公認球検定料収益	1,067,904	0	0	1,067,904
手数料収益				
手数料収益	1,026,684	83,950	0	1,110,634
受取補助金等				
受取助成金	100,000	5,145,000	1,806,000	7,051,000
雑収益				
雑収益	556,046	143,760	181	699,987
経常収益計	55,730,423	16,546,110	1,806,181	74,082,714
(2) 経常費用				
事業費				
謝金	514,501	232,957	160,000	907,458
旅費交通費	2,165,182	4,428,242	497,700	7,091,124
宿泊費	1,354,866	2,376,978	125,290	3,857,134
事業支援費	15,860,800	0	0	15,860,800
事業大会視察	293,348	0	0	293,348
賃借リース料	125,524	2,435,511	11,966	2,573,001
制作費	2,480,821	2,084,872	0	4,565,693
用具費	365,843	857,107	157,544	1,380,494
通信運搬費	91,892	973,136	952,401	2,017,429
印刷製本費	2,668,984	731,210	235,835	3,636,029
事業消耗品費	1,631,622	2,070,632	43,893	3,746,147
事業雑費	168,974	999,486	191,752	1,360,212
管理費				
給与手当	8,361,678	0	0	8,361,678
通勤費	726,024	0	0	726,024
法定福利費	1,384,358	0	0	1,384,358
福利厚生費	71,610	0	0	71,610
賃借料	3,135,252	0	0	3,135,252
リース料	388,449	0	0	388,449
旅費交通費	855,006	0	0	855,006
通信費	382,999	0	0	382,999
運賃	776,894	0	0	776,894
発送業務委託費	78,408	0	0	78,408
消耗品費	343,768	0	0	343,768
顧問料	1,000,000	0	0	1,000,000
業務委託費	747,144	0	0	747,144
会議費	42,626	0	0	42,626
接待交際費	261,010	0	0	261,010
水道光熱費	391,628	0	0	391,628
諸会費	581,250	0	0	581,250
租税公課	878,950	0	0	878,950
支払助成金	100,000	0	0	100,000
減価償却費	354,900	0	0	354,900
雑費	271,569	0	0	271,569
経常費用計	48,855,880	17,190,131	2,376,381	68,422,392
当期経常増減額	6,874,543	△ 644,021	△ 570,200	5,660,322
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	6,874,543	△ 644,021	△ 570,200	5,660,322
税引前当期一般正味財産増減額	6,874,543	△ 644,021	△ 570,200	5,660,322
法人税、住民税及び事業税	70,000	0	0	70,000
当期一般正味財産増減額	6,804,543	△ 644,021	△ 570,200	5,590,322
一般正味財産期首残高	24,525,750	△ 13,719,516	△ 4,000,090	6,806,144
一般正味財産期末残高	31,330,293	△ 14,363,537	△ 4,570,290	12,396,466
II 正味財産期末残高	31,330,293	△ 14,363,537	△ 4,570,290	12,396,466

監査報告書

一般財団法人日本ドッジボール協会
評議員・理事 各位

2016年 6月22日
一般財団法人日本ドッジボール協会

監事 畑 敬 

私は、一般財団法人日本ドッジボール協会の、2015年度(自2015年4月1日至2016年3月31日)の会計並びに業務について監査を行い、次の通り報告します。

記

1 監査方法の概要

- ① 会計監査については、帳簿及び関係書類を調査し、担当役員及び事務職員に質問を行い、貸借対照表、損益計算書及び財産目録の計算書類の正確性を検討した。
- ② 業務調査については、必要書類を調査し、かつ担当役員及び事務職員に質問を行うなど必要と思われる監査手続きを実施して、会計遂行の妥当性を検討した。

2 監査意見

- ① 上記会計の計算書類は、会計帳簿の金額と一致し、一般財団法人日本ドッジボール協会の2016年3月31日現在の財産状態及び同日を以って終了する事業年度の損益を正しく示しているものと認める。
- ② 事業及び会計報告書の内容は、妥当なものと認める。
- ③ 理事の会計執行は公正に運営されており、法令及び一般財団法人日本ドッジボール協会定款に照らし、特に指摘すべき事項はない。


以上

監査報告書

一般財団法人日本ドッジボール協会
評議員・理事 各位

2016年 6月 27日
一般財団法人日本ドッジボール協会

監事

山田 

私は、一般財団法人日本ドッジボール協会の、2015年度(自2015年4月1日至2016年3月31日)の会計並びに業務について監査を行い、次の通り報告します。

記

1 監査方法の概要

- ① 会計監査については、帳簿及び関係書類を調査し、担当役員及び事務職員に質問を行い、貸借対照表、損益計算書及び財産目録の計算書類の正確性を検討した。
- ② 業務調査については、必要書類を調査し、かつ担当役員及び事務職員に質問を行うなど必要と思われる監査手続きを実施して、会計遂行の妥当性を検討した。

2 監査意見

- ① 上記会計の計算書類は、会計帳簿の金額と一致し、一般財団法人日本ドッジボール協会の2016年3月31日現在の財産状態及び同日を以って終了する事業年度の損益を正しく示しているものと認める。
- ② 事業及び会計報告書の内容は、妥当なものと認める。
- ③ 理事の会計執行は公正に運営されており、法令及び一般財団法人日本ドッジボール協会定款に照らし、特に指摘すべき事項はない。

以上